

(For JSPS Fellow)

Form B-5

Date (日付)

06/06/2015 (Date/Month/Year: 日/月/年)**Activity Report -Science Dialogue Program-**

(サイエンス・ダイアログ事業 実施報告書)

- Fellow's name (講師氏名): Lindner Benjamin \_\_\_\_\_ (ID No. P 14030)

- Participating school (学校名): Hosei Univ. Girls' high school- Date (実施日時): 25/01/2016 (Date/Month/Year: 日/月/年)- Lecture title (講演題目): (in English) An Introduction to Germany and to a Research Career in Chemistry(in Japanese)

- Lecture summary (講演概要): Please summary your lecture 200-500 words.

My lecture was subdivided in two parts. In the first 30 min I was talking about Germany and Bavaria. Mainly about culture, history, food and cities. The details were based on my life in Bavaria and my impressions.

In the second part I was talking about my decision to study chemistry and about science and chemistry in general. I started with the choice of university, differences between German and Japanese Bachelor/Master studies and went on with definition of chemistry, chemical transformations, useful products from raw materials. Other topics were the importance of English in science and working in a laboratory.

In the end I was talking about my research experience and conducted an experiment about fluorescing compounds.

- Language used (使用言語): English

- Lecture format (講演形式): pptx (Powerpoint)

◆Lecture time (講演時間) ~90 min (分), Q&A time (質疑応答時間) ~15 min (分)

◆Lecture style (ex.: used projector, conducted experiments)

(講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など))

Used projector and conducted an experiment (fluorescence)

◆Interpretation (ex.: assistance by accompanied person, provided Japanese explanation by yourself) (通訳 (例: 同行者によるサポート、講師本人による日本語説明))

My host professor accompanied me to explain and translate

◆Name and title of accompanied person (同行者 職・氏名)

Prof. Dr. Yoshito Tobe

◆Other note worthy information (その他特筆すべき事項):

---

- Impressions and opinions from accompanied person (同行者の方から、本事業に対する意見・感想等がありましたら、お願いいたします。):

今年度2回目の本事業であった。今回はやや遠隔地ではあったが、比較的交通の便がよかったので往復に要する時間は受け入れ可能範囲内であった。ただし、偶然ではあるが、雪の影響を考慮して前日泊にした。実際、当日は新幹線に大幅な遅れが出たため、当日の早朝発では間に合わなかった。

参加者が1年生であるということだったので、研究に関する講演だけでは集中力を維持するのは今まで以上に困難だと考え、今回は半分以上の時間は自国の文化・習慣について話してもらった。参加者は1年生の19名という少数であったが、みな熱心に聴いていたように思う。参加者が少数であったのは、1年生全員に同時進行で4つのサイエンスダイアログを行ったためであり、われわれの授業は参加者がもともと少なかった。このような受講のさせかたには大いに疑問を感じる。また、1年生の生徒は化学に関する知識が全くと言っていいほどないため、後半の内容は多くの生徒たちにとっては理解困難であったようだ。演示実験に対する反応もこれまでと比べて低調であった。何度か促したにもかかわらず質問が一つしか出なかったことも、英語を聞き取り内容を理解する能力と意欲が少し足りなかったためと思われる。

参加者は高校1年生でしかも19名という少数であったため、前日から1日を費やして出かけていった割には事業の効果が大きくないと思われる。したがって今回の事業は前の2回に比べて充実感に欠けるものとなった。生徒への事前の指導を含め準備をしていただいた高校の教員方には感謝したいが、本事業が博士研究員ならびに補助教員の貴重な時間を割いて行っていることに対する配慮もあってよいと思う。具体的には、今後は以下の3点に関して、JSPSならびに受入れ高校側で十分な事前調整を行っていただきたい。

1. 原則的に近隣の高校で行うことになっているので、遠隔地(時間とは関係なく地域に基づいて)の博士研究員には、機構側から応募を呼びかけないこと。移動時間についても、長時間を要する高校については移動時間が少なくすむ研究機関に所属する博士研究員に限定して応募を呼びかけていただきたい。
2. 受講生の学年について、事業の効果の観点から、高学年の内容を学習しはじめた2年生の夏休み以降が好ましい。特に理系科目については1年生の後期では、中学卒業時の知識と大差ないため、専門に関する内容を理解するのは英語および専門用語の問題もあり事実上不可能である。
3. 受入れ高校側でもSSHに指定されたから本事業を行うというのではなく、生徒の希望に沿った内容について講演依頼をしていただきたい。また、今回のように参加者(しかも1回目のときのように化学に興味をもつ生徒を特に集めたのではない)が19名というようなことでは効果が薄く、本事業の意義にもかかわるので、注意するべきであろう。